

京のごみ戦略 2 1 の施策実施状況

「京のごみ戦略 2 1」（現行計画）の、施策体系別の主な実施内容及び進捗状況を整理したものを以下に示す。

◎：完了または実施中，○：一部実施中，△：検討中，または，準備中

※表中の太字はこれまでの部会にて意見のあった取組を示す。

1 上流対策に重点を置いたごみ減量化の促進

(1) 上流対策の推進に向けて

① 発生抑制・再使用を重視したまちづくり

◎	◇マイバックキャンペーンや無包装・簡易包装運動の強化・定着 ◇サービス業版 K E S における環境にやさしい旅館・ホテル等の認証 ◇祭りなど催し物のエコ化	協定参加 26 団体 9 施設
○	◇コーディネート機能・体制の確立 ◇循環ビジネスの事業化支援の検討 ◇エコ商店街の実現 ◇リターナブル容器システムの整備 ◇修理体制の充実	採択事業 6 件 店頭回収 79 箇所 160 店舗紹介
△	◇”循環の匠”制度の検討 ◇食の循環システムの構築	

② 市民・事業者による主体的活動の推進・支援

◎	◇簡易包装促進キャンペーンの実施、促進 ◇廃食用油の回収拠点拡大 ◇地域ごみ減量推進会議の設立促進	1,352 拠点 115 団体
○	◇市民向けごみ減量実践講座の充実 ◇秘密書類リサイクル事業の促進 ◇フリーマーケットの推進 ◇地域特性に配慮した自主的かつ多様な目標の設定と取組の推進 ◇地域活動の核となるリーダーの養成・支援 ◇関係諸団体の協働による取組の強化	77 人参加 86 団体参加 13 回開催
△	◇ごみ減量に取り組む事業者向け情報流通体制の整備 ◇活動のための場の紹介・斡旋	

③ 環境教育・環境学習の充実

◎	◇学校・地域・事業所等への「出前講師」の派遣 ◇教育委員会と連携を図った環境教材の開発等 ◇KES 学校版の推進 ◇京エコロギーセンターを核とする地域学習のための場の創造	41 件 3.6 万冊配布 178 校参加
○	◇総合学習への組み込みの検討（体験学習等） ◇環境学習ネットワークの拡大 ◇会社やイベント等における研修会の開催 ◇区役所と連携を図った普及啓発活動実施の検討 ◇イベント等におけるごみの分別等の体験学習の実施	95 人参加 事業助成 39 件
△		

(2) 家庭系ごみの減量化

① 市民による自主的取組

◎	◇京都市エコライフチャレンジ（環境家計簿）の活用 ◇グリーン購入の促進（京都グリーン購入ネットワーク設立） ◇買い物袋の持参 ◇エコ・クッキングの実践 ◇分別収集・集団回収・店頭回収・拠点回収への参加・協力 ◇分別マナーの徹底 ◇自家処理可能な家庭での厨芥類の堆肥化（堆肥化装置購入助成）	19,393 世帯利用 96 人参加
○	◇フリーマーケットの利用促進 ◇修理・修繕による「もの」の長期使用	
△	◇レンタル・リースの利用促進	

② 家庭系ごみの減量を促す行政の取組

◎	◇グリーンページ（総合環境情報誌）の作成 ◇「京都環境賞」制度の普及 ◇「京都市エコライフチャレンジ（環境家計簿）」の活用推進 ◇マンション、アパートなどの管理人を通じたごみ分別情報の提供 ◇資源有効利用促進法及び家電リサイクル法などの各種リサイクル法への周知・対応 ◇新しい集団回収の取組（コミュニティ回収制度）の普及・促進 ◇市内転入者に対する分別情報の提供 ◇家庭ごみの収集・処理コスト負担のあり方の検討	応募 23 件 回収11,769 トン
○		
△		

(3) 事業系ごみの減量化

① 事業者による自主的取組

◎	◇KES, ISO14001 の取得の促進	認証 610 件
○		
△	◇事業者によるごみ減量相談窓口の設置と啓発 ◇環境報告書の作成・公表 ◇環境会計の導入促進 ◇環境問題に対する社員研修の実施 ◇ペーパーレス化の推進 ◇グリーン調達促進など ◇業種別の団体単位等での「ごみ減量・リサイクル行動計画」の策定	

② 事業者のごみ減量を促す行政の取組

◎	◇KES・ISO14001 認証取得を目指す企業に対する情報提供等の支援 ◇処理原価に応じた搬入料金の設定 ◇排出事業者のごみ減量意識を向上させる取組の検討（協議会設置）	相談件数 61 件
○	◇食品リサイクル法・建設リサイクル法などの周知・徹底 ◇分別・リサイクルに伴うコスト発生に関する啓発 ◇より効率的・効果的な収集運搬制度の検討（特定品目の収集許可） ◇事業所に対する立入調査・指導の仕組みの構築 ◇減量計画書の対象事業所の拡大 ◇再資源化促進のための民間における受け皿把握と民間への誘導 ◇民間における再資源化のための受け皿整備の支援・促進	269 件啓発 185 件啓発 対象 2,300 事業所
△	◇事業系ごみの実態把握と業界別リサイクル情報等の発信 ◇業界ごとのトップランナー企業の取組紹介 ◇業界別自主行動計画の実施・成果に対する支援（表彰、作成の援助等） ◇ごみ分別に対するインセンティブ（動機付け）が働くような搬入料金の設定 ◇透明指定袋による適正排出の推進 ◇受け皿を整備した上での告示産廃の受入停止の検討 ◇減量計画書の公表・優良事業者に対する表彰などの仕組み ◇減量計画書の評価の事業者へのフィードバックの検討 ◇事業系ごみ中の缶、びん、ペットボトルなどの市施設への受け入れの検討 ◇オフィス町内会など古紙再資源化のための仕組みづくりの検討	

2 分別・リサイクルの拡大

(1) 家庭系ごみの分別品目の拡大

◎	◇多様な分別手法及び機会の提供 ◇プラスチック製容器包装の本格的な全市収集への移行 ◇その他紙製容器包装・厨芥類の再資源化・エネルギー回収に向けた検討 ◇家電4品目・自動車・パソコンの法制度に基づくリサイクルルートへの誘導 ◇小型金属類の分別収集の定着 ◇古紙・廃食用油・古布・トレイ・二次電池・紙パック・乾電池の民間回収・拠点回収の促進 ◇透明指定袋制の導入による適正排出・分別排出の促進	収集量 224 トン 紙パック 288 拠点他
○		
△	◇将来的に灰溶融施設の燃料としての活用も視野に入れた再資源化手法の検討 ◇再使用可能な大型ごみの有効活用の検討	

(2) 市民の分別リサイクル機会の拡大

◎	◇新しい集団回収の取組（コミュニティ回収制度）の普及・促進 ◇地域コミュニティ単位で取り組まれている堆肥化などの自主的な取組に対する支援策の検討	市民公募事業 14 団体他
○		
△	◇地域の身近な回収拠点としての店舗・商店街・公共施設等の機能の拡充・強化	

(3) 有害物・危険物への対応

◎	◇有害物・危険物の民間回収ルートの把握と情報発信 ◇再資源化可能物の分別・リサイクルの検討	
○	◇国や関係業界等への回収ルートの確立に向けた働きかけ ◇有害物・危険物の管理システムの検討	
△	◇有害性の高いものについて、回収ルートが確保されるまでの一時回収の検討	

3 環境負荷の少ない廃棄物管理システムの構築とまちの美化

(1) 廃棄物管理システムの構築

◎	◇廃棄物管理システムの整備計画の推進 ◇LCA を活用した廃棄物管理システムの選択 ◇地域における環境学習の場としての施設整備の推進	
○	◇施設整備に際しての PFI 等の民間活力導入についての検討	
△		

(2) 資源循環に向けたバイオマスの活用

◎	◇バイオマス利活用の促進・普及に向けた国等への働きかけ ◇バイオマスの利活用に向けた取組の推進	
○		
△		

(3) 災害廃棄物への対応

◎		
○	◇災害廃棄物処理実践行動マニュアルの策定 ◇災害時に備えた施設機能の充実	
△		

(4) まちの美化推進

◎	◇「世界の京都・まちの美化市民総行動」の推進 ◇観光地・繁華街での清掃活動の推進 ◇まちの美化住民協定制度の推進 ◇門掃き・町内清掃の推進 ◇友・遊・美化パスポート事業の推進 ◇ごみ容器・回収容器の整備充実 ◇ごみのポイ捨て防止・美化啓発の推進 ◇関連機関との連携による不法投棄対策の推進	参加者約3,500 人 美化活動 121 回 334 団体参加 1,611 人参加 約 700 基設置
○		
△		

4 計画の進捗

◎	◇計画の周知 ◇行動計画（アクションプラン）の策定 ◇進捗状況の市民への積極的な公表 ◇廃棄物に関する調査研究の充実	
○	◇進捗のチェック体制の確立	
△		